特定非営利活動法人　日本栄養改善学会　関東･甲信越支部
現場で活動する管理栄養士･栄養士のための「実践栄養学研究セミナー」初級編事業報告

関東･甲信越支部　支部長
国立研究開発法人医薬基盤･健康･栄養研究所 石見　佳子
関東･甲信越支部　実践栄養学研究セミナー担当
高崎健康福祉大学　木村　典代

本セミナーは、NPO 法人日本栄養改善学会の第 13 期･14 期事業の具体的な活動の一環として、実践現場からの科学的根拠を生み出せる体制を整備することを目的して行われた。現在、この事業は本部事業として実施するだけではなく、各支部会レベルで開催されることになっている。本セミナーは支部体制が整備されてから最初の開催となるため、事業計画、プログラム内容と実施状況、評価と改善事項について報告する。

Ⅰ. 事業計画

1. セミナーの全体スケジュールと到達目標

本セミナーは、実践栄養学研究セミナーの初級編として位置づけ、到達目標は抄録の作成および学会発表ができるようになることとした。到達目標を達成するための全体スケジュールを図 1 に示した。

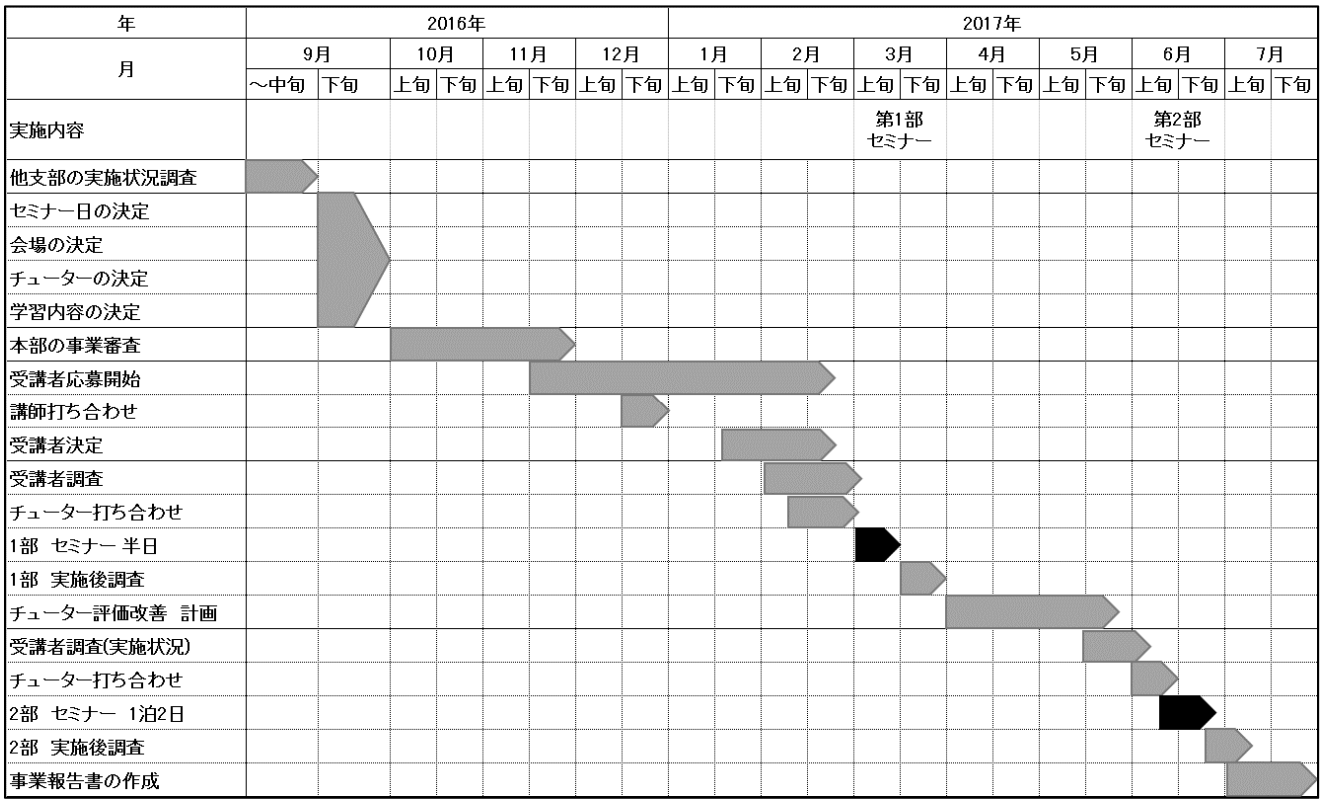

図 1　関東甲信越支部　実践栄養学研究セミナー初級編　全体スケジュール

本セミナーは 2 部構成とし、1 部は 3 月、2 部は 6 月の開催とした。具体的な到達目標、日程、会場、参加費、募集人数、受講応募の条件等は、図 2 に示したとおりである。

到達目標	初級編では、抄録作成と学会発表ができるようになること		
	1 部	自分が発表したいことが何かを明確にすること	
		自分のデータを整理できるようになること	
	2 部	データを解析して、結果を導き出すこと	
		抄録を書けるようになること	
		口頭発表ができるようになること	
日　時:	1 部	平成 29 年	3 月 18 日(土) 13:00～18:00
	2 部	平成 29 年	6 月 10 日(土) 12:30～18:30(19:50)
			6 月 11 日(日) 9:00～13:00
開催場所:	女子栄養大学 駒込校舎		
参 加 費:	全日程参加で 10,000 円 （交通費 宿泊費別）		
募集人数:	20～25 名		
受講応募の条件:			
	①学会発表の経験はないが、栄養改善学会で実践現場のデータを発表・報告したい方		
	②学会発表等の経験はあっても、自分の発表に自信が持てないという方		
	③今後、自分の実践業務を論文にしてみたいと考えている方		
	④その他の条件		
	全日程参加できる		
	基本的なパソコン操作(ワード、エクセル、パワーポイント)ができる		
	日本栄養改善学会の会員であることとした。		
使用テキスト:	日本栄養改善学会監修		
	「初めての栄養学研究論文ー人には聞けない要点とコツ」(第一出版)		

図 2 セミナー企画

2. 事業実施申請と募集の手続き

本事業は、日本栄養改善学会の活動の一環で行われるため、事業開始 4 ヶ月前に本部に事業実施申請を行った。また、受講者募集は、本部および支部会のホームページと、栄養学雑誌にて行った。

3. 講師・チューターの選出

栄養教育分野、臨床栄養分野、公衆栄養分野、給食経営管理分野、スポーツ栄養学分野の実務経験のある者を講師・チューターとして選出し、チューター間で具体的なプログラムと学習内容を検討した。

Ⅱ．セミナープログラムと学習内容

セミナーは、職域別に 5 つのグループをつくり、講義および演習（グループディスカッション）で構成した。セミナープログラムと学習内容は下記に示した（表1）。

表 1　セミナープログラムと学習内容 13:00～18:00 実施）

実施項目　1 部 （平成 29 年 3 月 13:00～18:00）	具体的な学習内容
1．オリエンテーション	本セミナーのねらい 到達目標
2．講義（担当講師：荒井）	学会で発表するために必要なこと ①文章を書くコツ ②実践活動を発表するための構成 タイトル、発表者、目的（はじめに）、 方法（事業・活動内容）、結果（事業・活動成果）、 考察・結論（今後の課題）、謝辞、利益相反、文献
3．講義と演習（担当講師：木村）	実践活動報告のためのフレームワーク(図 3) ①共通の課題をグループディスカッションする ②自分の発表テーマについて考える
4．講義（担当講師：斉藤）	倫理的配慮について ①ヒトを対象とした研究を実施する場合 ②倫理配慮をもった研究の手順 ③質問紙調査等における倫理的配慮 ④様々なケースのインフォームド・コンセント
5．講義＆演習（担当講師：木村）	得られたデータの整理方法 ①データの種類 ②質問紙調査を行うときの注意点 ③データの入力とクリーニング ④電子データの取り扱い方法

実施項目 （平成 29 年 3 月～6 月）	具体的な学習内容
6．個別指導（各担当チューター）	メールによる指導　　電話による指導　　面談による指導
7．個別学習	自分の発表内容を決定する　　自分のデータを整理する

実施項目　2 部 （平成 29 年 6 月 1 日目 12:30～20:00、2 日目 9:00～12:30）	具体的な学習内容
8.オリエンテーション	本セミナーのねらい 到達目標の説明
9.実施状況の確認	テーマの確認 データ整理状況　　その他
10.講義と演習（担当講師：木村）	実践活動報告に必要な統計について 個々の活動成果を現すために必要な統計について
11.講義（担当講師：荒井）	抄録の書き方（復習）
12.講義（担当講師：斉藤）	実践活動報告の演題発表 ①ポスター発表の特徴・ポイントと注意点 ②口頭発表の特徴・ポイントと注意点
13.自分のデータを分析 （各担当チューターの指導による）	自己学習 ①自分のデータから結果を導く ②グラフ・表を作成する ③抄録を書く　→　提出 ④発表用のパワーポイントを作成する
14．成果発表会の説明	1 人 8 分発表＋4 分質疑応答 3つのグループ(8 人ずつ)に分かれて実施

1 部のセミナーから 2 部のセミナーまでの 3 ヶ月間は、受講者が個々に自分の発表内容を検討し、データ整理をする期間とし、日程を決めて、チューターの個別指導を受けられるよう配慮した。また、1 部で実施した実践活動報告のためのフレームワーク例は図 3 に示した。

誰に･何に どのような問題に	どのような実践活動を行うと	何が(何に比べて)どうなるか？(どうか？)
例：小学 5 年生に	例：新しい教材を使った指導をすると	例：食意識が(教育前に比べて･他の教材を使った児童と比べて)、高まるか？

図 3　実践活動発表のためのフレームワーク　例

1)グループで栄養学雑誌に掲載されている実践活動報告を読み、図 2 のフレームを完成させる。

2)各自が発表したいと思うテーマを、図 2 のフレームにあてはめて、自分の発表構成を考える。

Ⅲ. セミナー実施の成果

1. セミナー企画に関する評価

1) 実施時期について

本セミナーは、年度を挟んでの開催となったが、4 月以降の職場異動のため 2 部に参加できないことを理由に辞退･脱落した受講生が複数名いた。

2) 会場について

本セミナー会場は、交通アクセスがよいだけでなく、複数の教室利用が可能であった。また、プロジェクター等の機器類も完備されており、情報処理演習室(PC)を利用できたため、進行がスムーズだった。

3) チューターについて

担当グループの割り振り、基本方針などの事前打ち合わせは、チューター間で集合およびメールにて実施したため、セミナー当日の混乱はなかったが、参加者数が想定数よりも多かったために、企画段階で予定していた 5 名のチューター数を、途中で 7 名に増やす必要があった。

4) 時間配分について

1 部では、グループワークや演習の時間がもっと欲しかったという要望が多かった。2 部では、個人の相談を受けつける時間を作って欲しいという要望が多かった。

2. 実施過程における評価

1) 参加率について

セミナー開始までの参加希望者数は 35 名であったが、セミナー開始前に辞退された方が 7 名おり、28 名での開催となった(学校健康教育 1 名、研究教育 9 名、病院 7 名、保健所･保健センター7 名、

給食委託会社 2 名、フリー2 名)。1 部の受講者数は 27 名で 96.4%の参加率、2 部の受講者数は 24 名で 85.7%の参加率となった。欠席・脱落の理由は、職場異動および仕事が入ってしまったためであった。

2) 個別指導

1 部のセミナーが終わり、2 部開始までの 3 ヶ月間の中で、チューターの個別指導を受けた者は、28 名中 18 名だった(64.3%)。その内訳は、メールによる指導が 15 名、電話による指導が 2 名、面談による指導が 5 名であった。個別指導を受けた受講者からは、チューターの指導が有益であった(10 件)、丁寧に対応してもらって感謝している(9 件)との感想が得られた。一方、指導を受けなかった 6 名は、仕事が忙しくコンタクトが取れなかった(4 件)、既に発表の見込みが立っていたため(1 件)という回答であった。

3) 参加満足度

参加満足度は、1.不満、2.やや不満、3.ふつう、4.やや満足、5.満足の 5 段階で評価し、1 部は 22 名が満足、4 名がやや満足 1 名が普通と回答した(4.8±0.5 点)。2 部は 20 名が満足、3 名がやや満足と回答し(4.9±0.3 点)、1 部 2 部ともに概ね良好な満足度が得られた。

4) 学習理解度

学習理解度は、1.全く理解できない、2.理解できない、3.どちらともいえない、4.理解できた、5.とても理解できたの 5 段階で評価した。結果は、表 2 に示したとおりで、概ね理解できた、とても理解できたの評価を得ており、学習内容は受講者の理解度に合っていたと思われた。

表 2 学習理解度について (人数)

	学習内容	1.全く理解できない	2.理解できない	3.どちらともいえない	4.理解できた	5.とても理解できた	理解度得点±標準偏差
1 部(27 名)	学会で発表するために必要なこと	0	0	0	9	18	4.7±0.5
	実践活動報告のためのフレームワーク	0	0	2	15	10	4.3±0.6
	倫理的配慮について	0	0	0	16	11	4.4±0.5
	得られたデータの整理方法	0	0	0	9	18	4.7±0.5
2 部(23 名)	実践活動報告に必要な統計	0	1	4	8	10	4.2±0.9
	抄録の書き方	0	0	1	7	15	4.6±0.6
	実践活動報告の演題発表方法	0	0	0	10	13	4.6±0.5

※2 部は途中参加となった 1 名分について学習内容に関する評価なし

3. セミナー受講後の意識評価

学会等における演題発表意欲と実践栄養活動報告の執筆意欲については、1.ない、2.ややない、3.ど

ちらともいえない、4.ややある、5.あるの 5 段階で評価した。結果は表 3 に示したとおりである。両評価とも 2 回の受講で大きな変化は見られなかった。今回のセミナーでは到達目標として演題発表できるようになることを応募の時点から掲げていたため、受講者は、セミナー申し込みの時点で、意識が高かったと考えられる。

表 3 セミナー受講後の意識評価 （人数）

調査内容とタイミング		1. ない	2. ややない	3.どちらともいえない	4. ややある	5. ある	意識得点 ±標準偏差
演題発表への意欲	1 部終了時	0	0	6	8	13	4.3±0.8
	2 部終了時	0	1	1	10	11	4.4±0.8
執筆投稿への意欲	1 部終了時	0	2	7	10	6	3.8±0.9
	2 部終了時	2	1	5	10	5	3.7±1.1

※1 部終了時の人数 27 名、 2 部終了時の人数 23 名

4. 到達目標の実行度

28 名の受講者のうち、途中脱落者を除く 24 名全員が到達目標に掲げていた抄録作成と口頭発表を実行し、目標を達成することができた(85.7%)(写真 4)。

5. 総合評価

受講満足度は比較的高く、2 部終了時には学会発表に向けての自信がついた、達成感があったという声が多かった。実際にこのセミナーでの発表体験と、聴講者が前向きになれるアドバイスをフィードバックしたことが、受講生の自信ややる気につながったと思われた。次回開催の希望があがったことからも、本セミナーは全体としては高評価が得られたと思われる。

Ⅳ. 本セミナーの改善事項と今後の課題

1. 実施時期について

年度を挟まずに実施できると、参加継続率を維持できる可能性が高くなる。日本栄養改善学会学術集会の演題募集時期を考慮して実施すれば、演題発表数の増加にもつなげられるだろう。

2. 会場について

アクセスがよく会場費が安価な会場を選ぶことはもちろんだが、会場の機器設備の状態により、進行に大きな影響を与えるため、大学等の教育施設を借りられるとよいと思われた。

3. チューターについて

本セミナーでは、1 名のチューターが 5,6 名の受講者を担当する予定で企画をしていたが、途中で 2 名

増やし対応することとなった。3～4 名に対して 1 名程度のチューターがいると、余裕をもって対応できるのではないかと思われた。

4. 時間配分について

1 部および 2 部の 1 日目、2 日目すべて半日ずつの日程でプログラムを組んだが、図 4 に示すように、1 部は午前中から開始し、グループディスカッションの時間を確保、2 部の 1 日目も午前中から開始し、個別相談の時間を確保、2 部の 2 日目は午後に成果発表会にすると、完成度および自己効力感をさらに高められたかもしれない。

1 部のプログラム

10:00～11:00	11:00～13:00	14:00～15:00	15:00～16:00	16:30～17:00	17:00～18:00
講義 発表する ために	グループ ワーク フレームワーク	講義 倫理的 配慮	講義演習 データ整理	抄録の作成 方法	相談受付 時間

2 部のプログラム

	10:00～11:00	11:00～12:00	13:00～17:00	17:00～18:00	18:00～20:00
1 日目→ 2 日目↓	講義　実践 活動報告に 必要な統計	講義 演題発表 の方法	実習 各自で作業	演習 グループ内 発表	実習 各自で修 正作業

9:00～12:00	13:00～16:00
実習 抄録の印刷 グループ内で修正したものを発表	成果発表会 修了証授与

図 4　改善プログラム　例

5.受講者への課題

関東・甲信越支部の実践栄養学研究セミナー受講者には、支部の学術総会および次年度予定されている第 65 回日本栄養改善学会学術総会にて積極的に演題発表をすることを求めている。また、今後栄養学雑誌へ実践活動報告を投稿できるように次のステップへの参加を促している。

Ⅴ. 本セミナー関係者（敬称略・五十音順）

講師兼チューター：荒井裕介（千葉県立保健医療大学）、木村典代（高崎健康福祉大学）、斎藤トシ子（新潟医療福祉大学）

チューター：會退友美（東京家政学院大学）、石田裕美（女子栄養大学）、小澤啓子（女子栄養大学短期大学部）、谷内洋子（千葉県立保健医療大学）であった。

オブザーバー兼アドバイザー：赤松利恵（お茶の水女子大学）、石見佳子（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所）、武見ゆかり（女子栄養大学）、髙田和子（国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所）

アドバイザー：由田克士（大阪市立大学大学）